

# 人工乳房保険で再建手術

## 紀和病院 乳がん患者 負担減

県内初

県内初の公的医療保険を適用した乳がん患者への人工乳房による再建手術が、橋本市岸上の紀和病院で行われた。同手術での人工乳房の保険適用が7月に認められ、10月には同病院が手術可能な施設として認定。11月にさっそく手術が行われ、経過も良好という。同病院は「保険適用により、費用面とともに乳房を失うことによる精神的負担も和らげることができる」としている。



保険適用された人工乳房について説明する梅村センター長—橋本市

をいれる部分が増えるなど患者の負担が重い。

乳がんの治療も長期にわたることが多く、費用も高額になりがち。自己負担で人工乳房の再建手術を行うとなると100万円以上が上乗せされ、費用面から再建をまきらめる例もみられたという。

そのため、人工乳房による手術にも保険適用を求める声が上がっていた。今回の保険適用によって、窓口負担も原則3割と大幅に軽減されるうえ、高額医療費制度も利用でき、患者の費用負担は大幅に減少するといふ。

同病院で乳がんなどを専門とする診療科「紀和ブレラスト（乳腺）センター」の梅村定司センター長は「乳

手術は県内の40代女性に對して行われ、乳がん手術担当の乳腺専門医と、再建手術を受け持つ形成外科専門医が担当。保険適用を受けたアラガン・ジャパン社（東京都渋谷区）のシリコン製、円形の人工乳房と皮膚拡張器を用いて手術に

あたった。同病院によると、11月5日に手術が行われ、すでに退院し通院治療を続けているという。乳房再建手術ではこれまで、自分のおなかや背中

脂肪や皮膚を使った手術にしか保険適用は認められていなかった。しかし、メス

乳房を失うことで他人の視線に敏感になったり、子供との入浴時に気になったりと生活する中でさまざまな精神的負担が生じる。保険適用により負担を和らげ、治療にも専念してもらえ

る選

平成25年(2013) 日刊25491号

12 | 3 [火]



産業経済新聞(サンケイ)  
THE SANKEI SHIMBUN

発行所 ©産業経済新聞大阪本社 2013  
〒556-8660 大阪市浪速区湊町2-1-57  
☎ 大阪(06)6633-1221(大代表)

産経新聞